

アプリ名称	goo 防災アプリ	AR ハザードスコープ(R) ONLINE	避難所案内
応募者名	NTT レゾナント株式会社	株式会社 キヤドセンター	ESRI ジャパン株式会社
受賞名	👑 第2回防災アプリ賞	👑 第2回防災アプリ賞	👑 第2回防災アプリ賞
概要	<p>総合防災アプリ。平時から、防災関連ニュースの閲覧、気象庁提供の警報・注意報のプッシュ通知の受信、避難訓練での利用、避難ルートの記録などができる。災害時には、標高データを用いた避難場所の選別と避難誘導、J-anpi を用いた安否確認等が可能。</p> <p>詳細については「別紙1」を参照</p>	<p>AR(拡張現実)を用い、スマートフォンカメラを通して現実の風景に災害予測情報を重ねて写し出すことができる。この機能を用いることで、災害時の風景を体感することができ、防災意識向上のための学習に役立てることができる。</p> <p>詳細については「別紙2」を参照</p>	<p>地方公共団体の防災担当者が、災害時に危険区域にいる人に避難を呼びかけるためのアプリ。防災担当者は指定した範囲にいる人に避難を呼びかけることができ、その範囲にいる人のアプリが自動で起動し、範囲内の人にはアプリの避難誘導に従って避難を行う。</p> <p>詳細については「別紙3」を参照</p>
選定理由	<p>標高により関係施設を絞り込むことができる機能が特徴的で避難誘導機能として良い。避難訓練機能を有しており、その機能を用いて避難ルートを記録することができる。この機能は災害時の避難記録としても利用可能であり、後々の検証に役立ち高く評価できる。</p>	<p>操作性が優れているとともに、動作が非常に速い。浸水深などのハザード情報を、AR 機能を有効に使って表示できる機能は独創性がある。また、幾つかの小学校で実証実験を行い、アプリの改善を行っている点は評価できる。防災・減災に有効に利用ができ、高く評価できる。</p>	<p>リアルタイムに端末の座標を取得し、任意のエリアを指定して通知を行う技術は、地方公共団体などが避難勧告を出す際に非常に役立つ機能であり、有用性が高い。また、端末側の避難誘導機能では、避難所に近づくとも自動的に地図が大縮尺になるなど工夫があり、避難誘導支援として高く評価できる。</p>
イメージ	 <p>高さ 34メートル</p> <p>標高バーで避難可能な避難所の選別が可能</p>	 <p>浸水深 ~+1.0m 足元高さ +0.0m 水深 +1.0m</p> <p>津波浸水深をAR上で表示し、災害を体感できる</p>	 <p>エリアを指定して避難を呼びかけ</p> <p>自動でアプリが起動して避難誘導を行う</p>
アプリ入手先	<p>Android</p>  <p>https://bousai.goo.ne.jp/apps/</p>	<p>(開発中のアプリであり、一般には非公開。11月頃公開予定。)</p>	<p>(開発中のアプリであり、一般には非公開。12月頃公開予定。)</p>

※ 選定した3つのアプリを応募順に左から記載してあります。

アプリ名称	防災セーフティマップ	家族向け安否確認システム Familoca	LifeLine 防災システム
応募者名	徳田 貴司	株式会社 つなぐネットコミュニケーションズ	LifeLine 防災システム プロジェクトチーム
受賞名	👑 入選 防災情報デザイン賞	👑 入選 思いやり賞	👑 入選 避難支援賞
概要	<p>避難所を分かりやすく図示し、効果的に避難誘導を行うだけでなく、様々な災害予測情報や過去の災害写真等を表示可能。標高は津波危険度に応じて色分けして表示することができる。平時からコンビニ検索等に使用することができる。</p> <p>詳細については「別紙4」を参照</p>	<p>極めて簡単な操作で家族全員に自分の安否情報を伝えると共に、全員の現在位置とその標高を知ることができるアプリ。自動受信したメールからは、家族全員の近くの避難所の情報が分かる。平時でも警報音を発したり、緊急事態メッセージの送信が可能。</p> <p>詳細については「別紙5」を参照</p>	<p>安否確認、避難誘導支援、ハザード情報の投稿等の災害時に使用する機能を総合的に実装したアプリ。災害現場の情報を写真とコメントを添えて投稿することで、アプリの使用者間で地図上で共有することができ、避難の際に役立てることができる。</p> <p>詳細については「別紙6」を参照</p>
選定理由	<p>平時から利用でき、経路や多量のハザード関係データを一元的に見ることができる。標高表示も直観的が良い。一般ユーザが興味を持ってくれそうな、デザインも楽しいアプリである。津波到達時間データを利用した避難可能範囲の表示は、他のアプリにない機能である。</p>	<p>災害発生直後に、簡単に事前に登録してある家族全員の位置情報と安否確認ができ、避難所以外にも標高が高い場所の表示が出る点は独創性があり評価できる。平時には「帰るコール」としても利用可能。家族向けの思いやりが感じられるアプリである。</p>	<p>災害発生後に、災害現場からのハザード情報の投稿と共有ができ、更に地図情報にもリンクしている点が良く、災害情報共有機能として評価できる。避難を支援するアプリとして有用である。また、地方公共団体での活用という視点が入っている。</p>
イメージ	 <p>避難可能範囲や標高の分かりやすい表示</p>	 <p>家族全員への安否送信</p> <p>付近の避難所と付近で最も標高の高い場所の表示</p>	 <p>ハザード情報の投稿・地図上での共有</p>
アプリ入手先	<p>iOS</p>  <p>https://itunes.apple.com/us/app/id895317418?mt=8</p>	<p>iOS</p>  <p>https://itunes.apple.com/us/app/familoca/id888955443?l=ja&ls=1&mt=8</p> <p>Android</p>  <p>https://play.google.com/store/apps/details?id=com.tsunagunet.familoca&hl=ja</p>	<p>(開発中のアプリであり、一般には非公開。公開時期は未定。)</p>

※ 選定した3つのアプリを応募順に左から記載してあります。

※ 入選した3つのアプリは、それぞれの機能の特徴等に基づき、第2回審査委員会において個別の賞名が与えられました。